

第3回緑の基本計画検討部会 摘録

1 開催日時

令和6年11月1日（金）午後2時～午後4時

2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第1会議室

3 出席者（五十音順、敬称略）

委員

7名出席（欠席なし）

委員 天野 晴美

委員 井原 縁

委員 谷 萌子

委員 内藤 光里

委員 深町 加津枝

委員 町田 誠

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

室長 永田 盛士

事業促進担当部長 朝山 勝人

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

4 次第

(1) 開会

(2) 審議

将来像、目標・指標、具体的施策の方向性の案

(3) 閉会

5 会議録 <委：委員、事：事務局>

議題：みどりの展望

委：

それぞれ異なるスケールであるが、分かりやすさを強く意識する必要がある。鳥瞰図は市街地のスケールであるが、公園や社寺、街路樹等がリアルにイメージできるものにするには、市街地だけにフォーカスした方が良いのではないか。

平面図については、クローズアップして、そこにどんな細かなみどりがあるのかが詳しく分かるような形でデータにアクセスできるようにして欲しい。

イラストは、わかりやすく生活感のあるものがほしい。

委：

平面図のうち「豊かなくらし」は、他と比べてレイヤーが多く、歴史・文化、景観・風情、経済・活力、営み・生業というみどりの働き全部が入っており、どこがポイントなのかが分かりにくい。

京都ならではの風致景観を生み出すみどりの骨格として、風致地区と歴史的風土特別保存地区が重要であり、その骨格をもっと浮き立たせる必要があると感じる。

委：

色々な情報を一つの図に入れると、骨格になる重要なものがわからなくなるので、もう少し整理した方がよい。

委：

市街地の見せ方について、様子がよく分かるようなスケール等の工夫、及び「豊かなくらし」平面図をシンプルにする工夫は可能か。

事：

鳥瞰図については、適切なスケールを検討する。デジタルであれば、ズーム可能な図も作成できる可能性はあると考える。

「豊かなくらし」平面図については、風致地区や歴史的風土特別保存地区は山裾に多く、まちなかとは分けて考える必要があると思う。

委：

取り囲む山裾だけでなく、まちなかにも保全すべき歴史、文化はあると思う。

「豊かなくらし」の要素に、博物館や美術館が挙げられるのも気になる。

また、伝統的建造物群保全地区が入っているのに、京都御苑が抜けているなど、違和感がある。みどり×歴史文化×賑わいをどこまでこの平面図で示すか整理する必要がある。

「経済・活力」や「営み・生業」は平面図に落としにくく、「景観・風情」も平面図とは折り合いが悪い。どこまで平面図で表現しきるのかも検討すると良い。

委：

鳥観図は、京都がみどりに囲まれていることがわかりやすいが、平面図は難しく感じる。

委：

「豊かなくらし」の平面図は情報が多く、風致地区、伝統的建造物群保存地区など、市民にとっては言葉の意味がわからないものがいくつかある。

議題：施策の方向性

委：

言い回しは特に気にならないが、方針2の「文化・にぎわい・くらしの視点」について、施策の方向性の順番が、「文化」、「にぎわい」、「くらし」、は適切か。

また、「にぎわい」という言葉は、駅の中のような場がイメージされ、公園で使う場合に誤解されることがある。そういう意味で、「文化・くらし・にぎわい」の並びとする方が取っつきやすいと思う。

委：

言葉遣いは、市民にとっても分かりやすいと思う。

委：

施策の方向性⑦「マネジメント」に当たると思うが、「造園力」ということであれば、これまでも謳われてきた「どこを見ても庭園のようにしつらえられている」という言葉を本文のどこかに入れてもらいたい。

委：

施策の方向性④で「都市の活力やシンボルとなり人を引き付けるみどりを形成する」とあるが、これはどういうもの想定しているのか。

事：

「みどりのはたらき」のうち「経済・活力」、「営み・生業」を前提としているため、外の方が見に来るようなみどりや、地域の人が集うみどり、具体的には円山公園やお東さん広場、東山、庭園など、文化と繋がりが強いものを想定している。

委：

④について、「にぎわい」がどういうものかが抽象的でわかりにくい。事務局が挙げたイメージは③の「文化」に近いのではないか。

委：

指標ともリンクするが、にぎわいの「場」作りと、にぎわいに向けた「誘引力」の両方が混ざっており、整理が必要である。にぎわいの場に絞るか、③文化とあわせて情報発信に特化するかなど、少なくとも2種類に分けられるのではないか。

委：

「にぎわい」の部分については、委員との個別相談も含め、次回までに検討してほしい。

議題：指標について

委：

指標の事務局案は、質の向上に重点を置き、単純に量を増やせば良いというものではないところがポイントであり、公園だけではなく、文化的に大切な特徴を活かしたものとなっている。

委：

レーダーチャートの7つの軸のうち、「にぎわい」だけイメージがつきにくい。「にぎわい」は、多ければ良いものではないのではないかと。

レーダーチャートを用いて、多面的に、みんなで評価していくことには、とても意義がある。一方で、チャートの面積の変化について最終的にどうまとめるのか総合的に捉える方法も必要と思う。毎年良くなっていることをどう表現するかも検討してほしい。トータルのみどりについて、感覚的に分かるような、理解のしやすさが求められる。

事：

事務局としては、バランスよく、できるだけ形を大きくしていくことを目指すための指針としたい意図である。最終的には、総評をするのではなく各軸の評価にとどめたい思いである。

委：

みどりをどれだけ確保すれば良いという時代ではなく、感覚的な良し悪しや、満足度が理解できればよく、単純な数値の比較は意味がないと思う。

委：

満遍なく各軸のバランスが取れているかどうかという視点を大事にするということなので、面積の大きさが重要なわけではないことが分かるようにしなければならない。

委：

指標の構成を見ると「にぎわい」のイメージは、梅小路公園のような場ではないか。音楽イベントやマルシェが開催され、水族館もあり、イメージに当てはまると思う。

委：

「にぎやかで人がたくさん居る」というよりは、人と自然・みどりの多様な関わりが、全市にあるということではないか。

委：

「にぎわい」という言葉は、扱う人によりイメージが異なり、適正なにぎわいと、人が多く来れば良いといった考え方の対立があるので、指標にそのような言葉を用いることは危険かもしれない。

一方、みどりの基本計画においても経済的な視点が重要だという事務局の考えも理解できる。「使いこなす利活用」といった言葉の中に、バランスを見ながら経済的なエッセンスを入れる表現が良いと思う。

事：

これまでの「経済」という言葉を、より柔らかい表現とするために「にぎわい」としたが、今回のご意見を踏まえてもう少し工夫したい。

議題：市民アンケートについて（指標の運用方法）

委：

市民アンケートは、関心の高い市民だけが答えそうで、回答が偏ってしまうのではないか。あらゆる市民を対象にアンケートを作ってもらいたい。

事：

ウェブアンケートでの実施を想定しており、満遍なく世代から回答を受け付けるようにしたい。

委：

市民アンケートの結果を、市民にも共有する予定はあるのか。

市民の意識の変化をみるのは難しいが、イベントや活動への参加から日常行動が変化していく効果があるように、アンケート結果を見た市民が変化を実感し、良い施策だと思ってもらえるよう、わかりやすく共有してほしい。そうすることで、もっと取組が進んでいくのではないかと思う。

事：

市民アンケートの結果は審議会のページで発信するなど、市民の皆様へのフィードバックを行いたい。また、市民にとって好循環を産むような打ち出しや方向付けをしていきたい。

委：

グラフの軸の「連携」にある「多様な主体との連携によりみどりの質を高める」の、「多様な主体」はどのような人を指しているのか。また、アンケートを実施する際は自由意見を書ける枠を設けてほしい。

事：

「多様な主体」としては、企業や大学、教育機関、様々な業界団体、活動グループなどを考えている。アンケートの中で自由記述の項目も設け、ご意見やアイデアを募りたい。

委：

実施するアンケートの内容を見たい。

事：

アンケート内容について、部会の中でもできるだけ具体的に議論したいと思う。次回の部会までに作成するように進める。

議題：素案全体について

委：

素案全体の構成について、事務局としての工夫やポイントはどこか。

事：

京都に豊かで多様なみどりがあることをみんなで再確認できるよう、改めてわかりやすく発信するところに重点を置きたい。そのため、前半の魅力発信パートは写真集のように見られるものとする。後半は行政計画のため、多少とっつきにくい内容にはなるが、きちんと計画として定めるべき内容を網羅していく。このような順番の工夫により、手に取って見ていただけるような構成にしたい。

ポイントとしては、第4章で市民や事業者へのメッセージを記載し、このような目標に向かって、一緒に取り組みたいということを示す。具体的に暮らしの中でどんなことができるのか、してほしいのかがきちんと伝わるように、メッセージという形で打ち出していきたい。

委：

これまで議論してきた鳥瞰図などはどこに入れるのか。5章や6章に記載するのは、本日の資料の何ページになるのか。

事：

鳥瞰図などは第3章に入れていく。5章には施策の方向性の詳しい内容が入る予定で、6章は、これまで検討してきた計画の概要や、指標、計画内容に触れていきたいと考えている。

委：

一般の方は資料編をあまり見ないと思われるので、それよりも前の部分を見てもらえるようにまとめていくという方向と理解した。

委：

冊子とウェブ版は作られるのか。

事：

見やすさを重視するため、デジタルブックや紙面印刷、PDFなど何パターンかあっても良い。ウェブ上でズームして見やすくする方法も検討したい。

委：

各論パートの「法定事項」とはどういう意味か。

事：

緑の基本計画は都市緑地法という法律に基づいて立てる計画であり、法により必要と定められている事項を法定事項として記載している。

委：

全体を通じての意見だが、レーダーチャートで1年の結果をまとめる際は、コンパクトな文章で全体を表すレビューをいれてもらいたい。

事：

計画策定後の毎年のレビューについては、きちんと議論しながら共有していく。その年はこういうところが良かったということを、写真等も交えながら、一目で分かるような工夫も合わせてしていきたい。

(以上)